

■大会趣意

昨年度の学内学会は「暴力」、すなわち、構造的に発生する格差・排除・破壊等をテーマとしました。振り返ると東日本大震災以降、近年の大会は、「暮らしの基盤が崩れていく」状況を一度根本からみつめ直そうという営みでした。それは変化に向かう大切な立ち止まりですが、ただそれだけでは苦しいので、小さくても一歩を進みたい。このような思いが、今回の「希望」というテーマにつながってきました。

いわば、「暮らしの基盤を取り戻していく」にあたり、それぞれの立場から自分自身に何ができるのかを考える機会となるよう、今大会では、各学科に関係の深い方を1名ずつ招きシンポジウムを開催いたします。ともすれば、経済効率優先の社会になし崩し的に流されるなか、「もうひとつの価値」や「場所づくり」を追求していくこと。それこそ私たち「コミュニティ福祉学部」、各学科がそれぞれの実践の中で育んできたものの本質を再認識し、つなぎあわせていく場となればと考えています。

■プログラム

+++++			
12:30 ～14:00	分科会 自由演題発表 8件とまなびあい座談会が行われます。各発表の詳細は、右記一覧をご参照ください。	2号館3階 N231-233	
14:15 ～14:45	総会 運営委員会の1年間の活動報告等	3号館3階 N333	
15:00 ～17:15	講演とシンポジウム 「コミュニティ福祉と希望—私達はいかに希望をつなぎ、育めるのか—」 ■講師■ 高橋 亜美氏 アフターケア相談所ゆずりは 所長 (福祉領域) 自立援助ホーム「あすなろ荘」の職員として9年間勤務した後、2011年にアフターケア相談所「ゆずりは」(児童養護施設や自立援助ホームを退所した人たちを対象とした無料の相談所)を立ち上げ、その革新的な若者支援の取り組みはメディア(読売新聞、NHK等)でも紹介されている。 著書本『愛されなかった私たちが愛を知るまで』かもがわ出版 HP http://asunaro-yuzuriha.jp 高橋 優子氏 小川町生活工房つばさ・游 理事長 (コミュニティ政策領域) 2009年8月「特定非営利活動法人 生活工房つばさ・游」代表就任。 埼玉県小川町において、市民による持続可能な社会モデル作りを目指して、有機農業を基盤とした食、エネルギー自給市民ネットワーク形成活動を積極的に展開している。 安定した有機農産物販路システムの提案、実施(2010年「第49回農林水産祭「豊かなむらづくり部門」にてコーディネーターしている小川町下里集落が「日本初!有機の里」として天皇杯受賞)、コミュニティカフェ運営ベリカフェつばさ・游(http://blog.goo.ne.jp/seikatukoubou_1953)等持続可能な地域コミュニティ形成の活動を行う。HP http://tubasa-u.com/ 千葉 祇暉氏 NPO パラエティクラブジャパン 代表理事 (スポーツウエルネス領域) 1986年に車椅子陸上競技(短距離)で国際大会日本代表に選出され、その後、バルセロナ、アトランタ、シドニーで開催されたパラリンピックに男子100メートルの代表として3大会連続出場。1998年、世界選手権で銀メダル獲得。その後、立教大学大学院コミュニティ福祉研究科で障がい者スポーツを研究。現在は福祉関連企業を経営するとともに、NPO パラエティクラブジャパン代表として子どもたちを支援している。企業や学校などでの講演活動も活発に行う。2020年東京パラリンピックに向けてトップアスリートを発掘・育成・強化・就職までを面倒見る日本チャレンジアスリート協会を今年3月一般社団法人で設立した。 http://www.variety-club-japan.jp/ http://www.human-design-creates.com/ http://challenged.or.jp/ ■コーディネーター兼コメンテーター■ 福祉学科 助教 岡田哲郎	3号館3階 N333	
17:30 ～19:00	懇親会 参加者同士、和やかな雰囲気の中でお話しをいたします。 *参加費 《学生》無料 《卒業生・一般》1,000円 《教員》2,000円	4号館1階 こかげ	

■分科会発表 (各発表20分、質疑応答10分程度を予定しています。)

会場	発表者・所属 (発表形式) 時間	発表タイトル・概要
N231 2号館3階	土田 秀美 他 コミュニティ政策学科 熊上ゼミ <団体発表 3名> 12:00-13:00	「 新座市立石神小学校におけるゼミでの継続的支援活動 」 新座市教育委員会との連携により「小1プロブレム」のある石神小学校にゼミメンバーが週一回二時間ずつ3クラスに分かれて一学期間支援活動を行った。その報告と全国の小1プロブレムに関する研究をまとめて今後の教育的支援を考える。
	田中 祐一郎 研究科修士1年 <個人発表> 13:00-13:30	「 精神障害者家族会の役割と機能 」 精神障害者家族会は、多くの地域で存在しており、精神障害者家族の情報の共有をする場として成り立っている。しかし、地域で生活している以上、日頃は家族会や専門職以外の人間と関わらなければならない。その際、精神障害者家族は、日頃どのような人と関わりを持っているか調べ、地域での生活について考える。
	小杉 桃代 コミュニティ政策学科 藤井ゼミ <個人発表> 13:30-14:00	「 成功するNPOの共通点～どのようなNPOが社会的使命を果たせるのか～ 」 昨今の社会問題の深刻化により、ソーシャル・イノベーションが注目されている。「社会起業家」と称される者も増え、現在日本にも多くのNPOが設立され続けている。しかし、多くのNPOは常に人員不足、資金不足といった問題に悩まされ、問題解決のための活動に支障をきたしている。 今年の夏休みに、3つのNPOに携わった。実体験を通して見えてきた各国のNPOの違いに注目しながら、社会に良い影響を与えることに成功するNPOの特徴を、マネジメントを中心に考察する。
N232 2号館3階	会田 陽香 スポーツウエルネス学科 大石ゼミ <個人発表> 12:00-13:00	「 卓球の授業が大学生活に与える影響について—テキストマイニングによる分析と考察 」 卓球の授業が大学生活にどのような影響を与えているのか、テキストマイニングという手法を用いて文章を3次元的に分析・考察した。
	青木 祐樹 他 スポーツウエルネス学科沼澤ゼミⅠ <団体発表 7名> 13:00-13:30	「 スポーツにおけるルーティンについて 」 各スポーツにおける、競技場面で、特定の動きを行ってから本動作に入っていく、特定の動きについて(ルーティン)、スポーツの競技歴やレベルに分けてアンケートを取り、ルーティンについての実用性について研究した。また対象は、大学生となる。
	佐藤 隼太 他 スポーツウエルネス学科沼澤ゼミⅡ <団体発表 5名> 13:30-14:00	「 走行時における、音楽が心身に与える影響 」 近年ランニングをする若者が増えてきている。又、スマートフォンなどの電子機器の技術も発達してきており、多くの人がイヤホンやヘッドホンをつけてトレーニングをしている。その現象に興味を持ったことがきっかけで実際に音楽は心身に何らかの影響があるのか実験を行った。 この実験は男女20名の学生がトレッドミルを用いて無音、クラシック、エアロビクスの3種類の条件下で走行した。その後、立教式メンタルヘルス尺度(MH-R)により主観的運動強度が精神的にどう変化したのかを調べた。そしてその実験結果を元に、音楽とトレーニングの使い道を新しくみつめていくきっかけにしたい。
N233 2号館3階	土屋 美香さん(ゲスト) 卒業生4期生 <報告> 12:00-13:00	「 地域で生きること～国際協力の現場と福島での暮らしから～ 」 卒業生の土屋さん(大学院修了後、青年海外協力隊でバングラデシュの村落開発に従事し、帰国後は、アースデイ東京事務局で勤務、現在、福島県猪苗代町に移住し、持続可能な暮らしの実践をされている)より、国際協力の活動で感じたこと、そして、現在の暮らしにいたる経緯などライフストーリーをお話しいただく。
	藤田 知也 コミュニティ政策学科空閑ゼミ <個人発表> 13:00-13:30	「 「ト」者の役割—「空気」と「世間」の存在から見る、地方再生のカギ 」 地方の消滅が叫ばれる今、全国各地で活動する、「ト」者の役割とは、一体何なのか。現代日本に存在する、「空気」と「世間」の視点から、模索する。
	土屋 美香さん卒業生4期生 大冨賀 政昭(コーディネーター) 3期生/まなびあい運営委員 <まなびあい座談会> 13:30-14:00	「 オルタナティブな暮らしとコミュニティ福祉 」を考える座談会 今回の座談会では、まず、卒業生の土屋さんのお話をよりどころとし、参加者と、国際協力の現場から得られた経験から考えるコミュニティ福祉とは何か、そのこととオルタナティブな暮らしがどのようにつながっているかといったことを考える座談会を実施する。